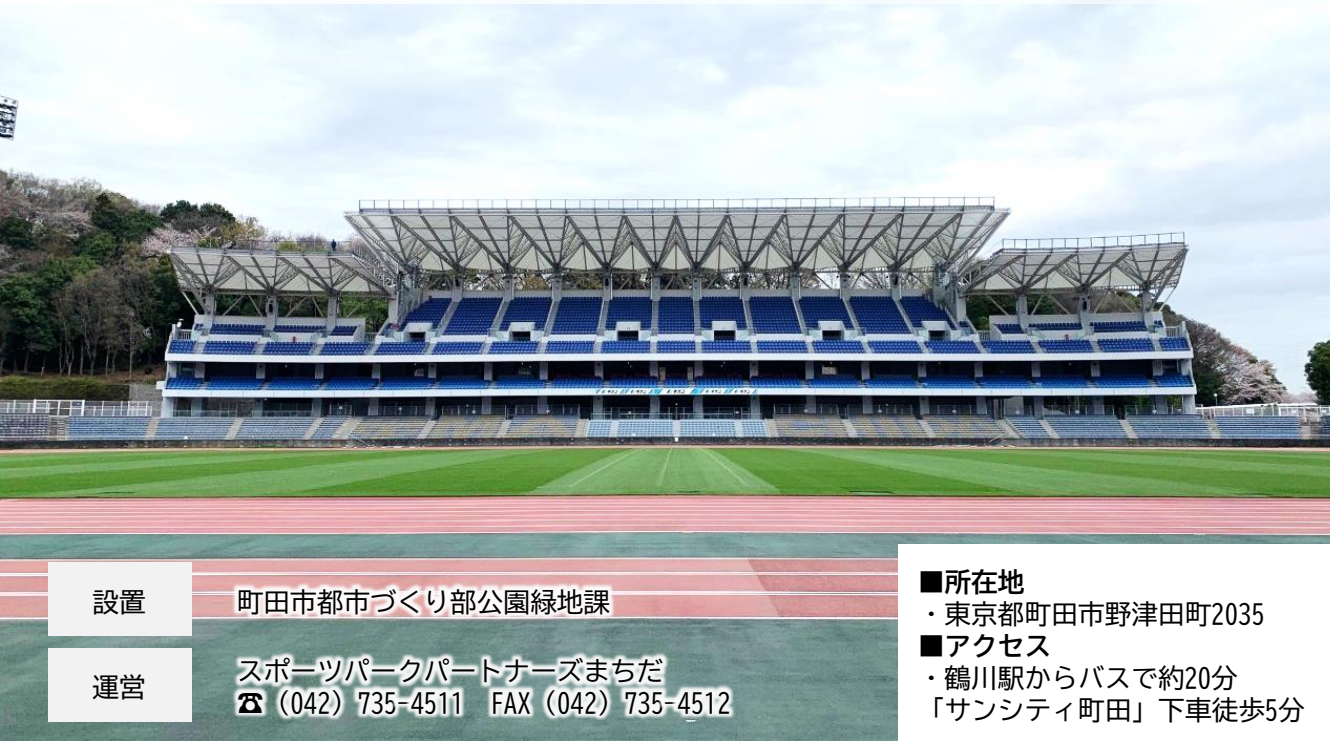


J1基準を満たし、「みる」と「する」のどちらも気軽に利用できるスタジアム



設置	町田市都市づくり部公園緑地課
運営	スポーツパークパートナーズまちだ ☎ (042) 735-4511 FAX (042) 735-4512

- 所在地
 - ・東京都町田市野津田町2035
- アクセス
 - ・鶴川駅からバスで約20分
 - 「サンシティ町田」下車徒歩5分

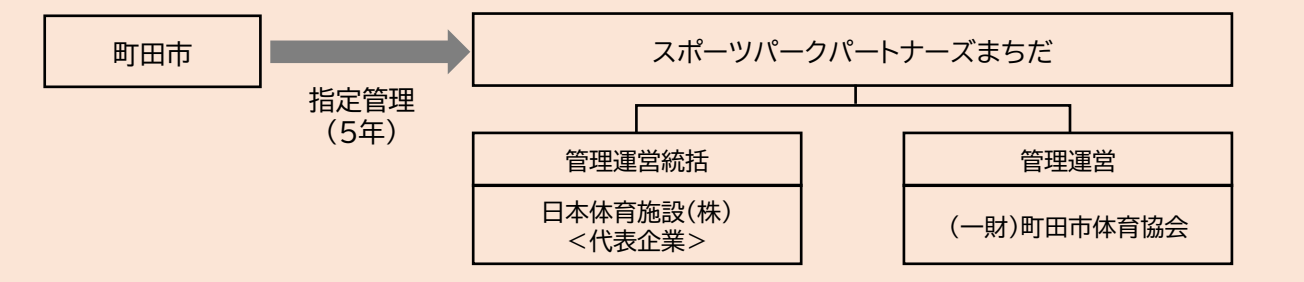
DATA

- 竣工
 - ・1990年
 - ・2021年（改修）
- 規模
 - ・延床面積 22,428㎡
- 総改修費
 - ・改修 約41億円（東京都「スポーツ施設整備補助金」ふるさと納税等を活用）

■主な設備



■体制図



改修のための構想・計画

○総合公園の中心施設として設置

豊かな緑と地形を最大限に生かし、市民の誰もが身近にスポーツ・レクリエーションを楽しむことのできる総合公園「野津田公園」が整備。公園内に、スポーツ施設を中心としてサッカー場兼用の陸上競技場として建設された。



○「みる」「する」の両立

本拠地としているFC町田ゼルビアがJ1参入を目指しており、それに合わせ、J1基準を満たす改修を計画。

- ・収容人数15,000人
- ・車いす席について、前列の観客により視野を妨げられないように設置すること
- ・トイレはどの席からもアクセスが容易な場所に男女別のトイレ設備を十分に設置すること

「みる」に加え、日常的な「する」施設となるよう、改修費等を鑑みて、ハード・ソフトの両面での取組の検討を行った。

改修等

○「みる」ための改修

トップレベルのスポーツを体感できる環境を整備するため、メインスタンド観客席の増席、バックスタンド新設、売店やトイレ、授乳室、多目的室の設置。



市の負担を減らすため、都補助金、ふるさと納税等を充当。

○「する」ための改修

施設を安全、安心に、そして快適な利用を実現するため、ユニバーサルデザイン等の工夫を施すとともに、施設周辺においても誰もが気軽にスポーツに親しむことができる工夫等を随所に取り入れている。

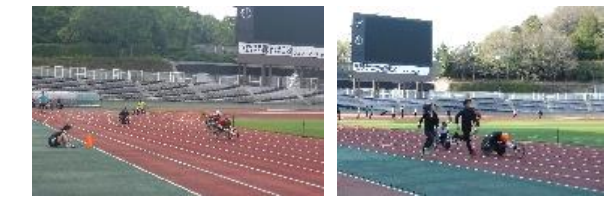


管理・運営

○誰もが安全・安心に利用できる工夫

■健常者と障害者の利用者の共存

車いす利用者は急な方向転換や停止が難しいため、他の利用者と接触しそうな場面があり、健常者から苦情があったことがあったことから、陸上トラックを利用する際、トラックの内側を健常者、外側を車いす利用者といった形でレーンを分散利用することによって、双方の安全を確保している。



■様々な利用者の実態の理解促進

苦情があった場合、その都度、健常者及び障害者の利用者同士が話し合うことができる場を設けている。

話し合いの場を設けることによって、健常者が、障害者の特性や運動する際にどのような動きとなるのか等について理解するきっかけにもなっている。その他、子ども達における想定されるリスク等についてもスタッフ間で共有を図っている。

○誰もが来場しやすい環境づくりの推進

■多様な教室の開催

FC町田ゼルビアのホームスタジアムとして地域住民からの認知度が高い。また、夜になるとスタジアム内が無風になることが多く、陸上記録がしやすい等、競技環境の良さが話題となっていた。そのため、アスリートの利用が増えているとともに、本格的に陸上に取り組むジュニアの利用者数の増加にも寄与している。

さらに、多様な属性が気軽に参加できるよう、グラウンドや陸上トラック、併設のトレーニング室等を用いて、各種健康・運動教室を実施し、幅広い参加者が集まっている。

■スタジアム外周の有効活用

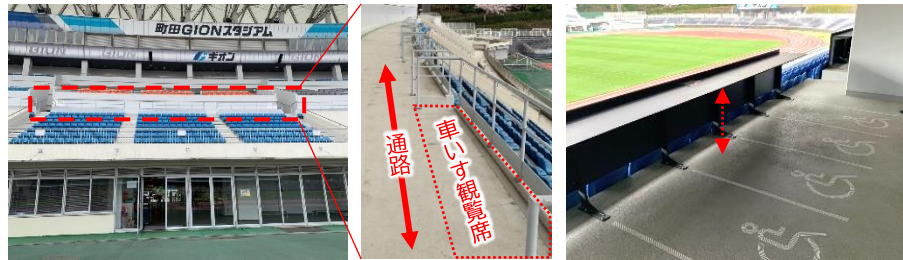
試合等がない時にも利用してもらえるようにするため、スタジアム外周の周回道路も単なる移動用の道路としてだけでなくスポーツの場として有効活用している。



改修の配慮事項

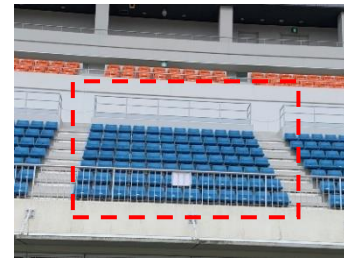
観戦席

車いす利用者が試合等を自由に観戦できる場が少ない。また、サイトラインが確保されていない場合が多い。



余裕を持った広さがあり、サイトラインが確保され、観戦しやすい車いす利用者用観覧席。通路も観覧席の後方に設置。(メインスタンド)

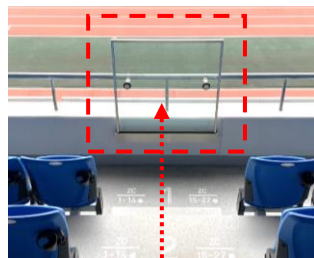
聴覚障害者には、アナウンスを聞き取りづらい人もいます



メインスタンドに磁気ループレジスタ対応席を設置

トイレ

転倒した場合、観客席から落ちてしまう恐れがある。



階段からの転落を防止するため、アクリル板を設置

多くの観客等が集うことから、利用者それぞれの事情により使いやすいトイレがあると良い



年齢や身体の大きさに応じて使いやすい便器



座って着替えなどしたい人のためのエバー・サルバッド

サインだけでは場所や配置がわからない



マークを立体的にし、指でなぞることで配置等の情報が把握可能なサイン

救護・授乳室



頻繁に利用されない2つの機能を効率的に組み合わせ、「救護・授乳室」を設置。室内では、プライバシーを確保するため、カーテンを設置。

サイン計画



大きなピクトグラムを採用

グラウンドの利活用

グラウンドは、芝生の管理等があることから、利活用しにくい現状がある

グラウンドの芝生を適切に管理しながら、様々な取組を展開し、グラウンド(トラックを含む)をフル活用している。



ピッチでヨガ



ピッチでドローン



ピッチでウェディング

スタジアム外の有効活用

スタジアム以外の遊休空間があるが、活用できていない

スタジアム周辺においても、気軽にスポーツを楽しんでもらうための場として、遊休空間の有効活用を行っている。



ボール遊びもできる芝生の広場



外周路に走行距離が分かるようメートル表示



短距離レーンを分けて安心して走ることが可能

子どもの入退館管理

子どもだけで教室等に通わせることに不安を覚える

スタジアムで行われる教室に、親が子どもを安心して通わせることができるよう、タブレット端末を使用して入退館情報が保護者に通知される管理システムを導入。



入退出管理端末導入

施設利用に関する情報発信

一般の方がいつ利用できるかわからない

個人利用可能な日とJリーグの試合など専用利用のため使用不可の日をホームページ上で公表することで利用者の利便性が高まるとともに、問い合わせ対応減少による職員の負担軽減につながっている。

日	月	火
個人利用日	休場日	個人利用日
個人利用日	休場日	個人利用日
専用利用日	休場日	個人利用日
個人利用日	休場日	9:00-13:00専用利用
専用利用日	休場日	個人利用14:00-19:00
専用利用日	休場日	個人利用日
専用利用日	休場日	個人利用日

クラブチームとの連携

スポーツ施設が住民等にとって身近な場になっていない

FC町田ゼルビアと指定管理者が共催し、施設内で様々な属性の人が参加できるコンテンツを展開。

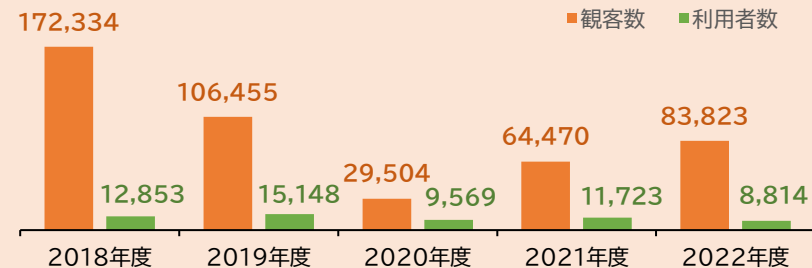


協同事業「ゼルキャン」

利用者現状

利用人数

2021年の改修後も新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きく、コロナ前には戻っていないが、右記の効果や利用者による評価が聞かれている。



効果

- 分散利用により、車いす陸上競技者の利用者数増加
- パラ陸上向け教室やジュニア向け教室の開催により、対象属性の利用者数増加
- スタジアム外で運動できる設備の整備や各居室を利用した教室開催により、多様な活動ができる場所という認知度が向上

利用者Voice

- 初来場時に利用方法の丁寧な説明が受けられる。
- 1回の利用料金で途中入退場が認められおり、使いやすい。
- ハードル、スタートブロック、高跳びなどの用具や器具を無料貸出し、使用時収と納時ともに係員が立ち合い、器具の不具合等を確認するため、安心して利用できる。